

HOT NEWS

雲仙復興事務所

平成27年1月6日

雲仙・普賢岳災害、継承への一歩 ～親から子、子から孫へのバトン～

発信元

雲仙復興事務所
総務課 専門員 氏名 矢野秀和

平成26年12月21日(日)、平成の噴火災害を学び、地域の防災力向上を図ることを目的として「島原防災塾」が島原市と南島原市をフィールドに開催されました。

今年は小学生44名(保護者7名)が参加し、「無人化施工機械の操作体験」、「大野木場監視所の見学」、「模型実験(砂防堰堤の効果)」、「(今回初)被災体験談を聞く」などが行われました。

私は今年初めて参加しましたが、「災害体験や教訓を風化させず次世代に引き継いでいくためには、各世代間の継続した交流が重要である」ことを痛感しました。

噴火から24年。雲仙復興事務所はこれからも「地域のことは地域で伝える」活動を支援していきます。

※本防災塾は、水無川の安中地区の住民参加による「安中防災塾」として過去3回実施してきましたが、今回初めて中尾川の杉谷地区の住民も参加することとなり、「島原防災塾」へ塾名を変更しました。

本塾には、運営主体である住民をはじめ、多数の関係機関(地元町内会や行政等(島原市・南島原市・九州大学・島原半島ジオパーク推進連絡協議会・雲仙復興事務所等))が参加しています。

★無人化施工機械の操作体験～人の代わりに危険な場所で工事する巨大ロボットを動かそう！～



★大野木場監視所～普段は入れない4階へ～



★体験学習①(模型実験)～「砂防堰堤」はなぜ必要なの？模型を使って確かめてみよう！～

砂防堰堤なし



家や車が
流された！
想像以上の
破壊力！

砂防堰堤は土石流をためたり、エネルギーを弱めてくれる働きをするんだよ。

砂防堰堤あり



なるほど！
安心だ！

土石流が
止まった！

★体験学習②(被災体験を聞いてみよう)～「君たちが生まれてくる前、鳥原で起きたことを話すよ」～



土石流の怖さを身をもって体験しました。災害はまた絶対起きると認識して、伝え続けていくことが大切です。

火砕流の熱で長靴が溶けた。怖くなり一生懸命逃げた。自分の身は自分で守らなければいけないよ。

避難生活は大変でした。日頃からの準備と近所とのつながりや助け合いを大切にしてくださいね。

